第1節　学習行動の比較

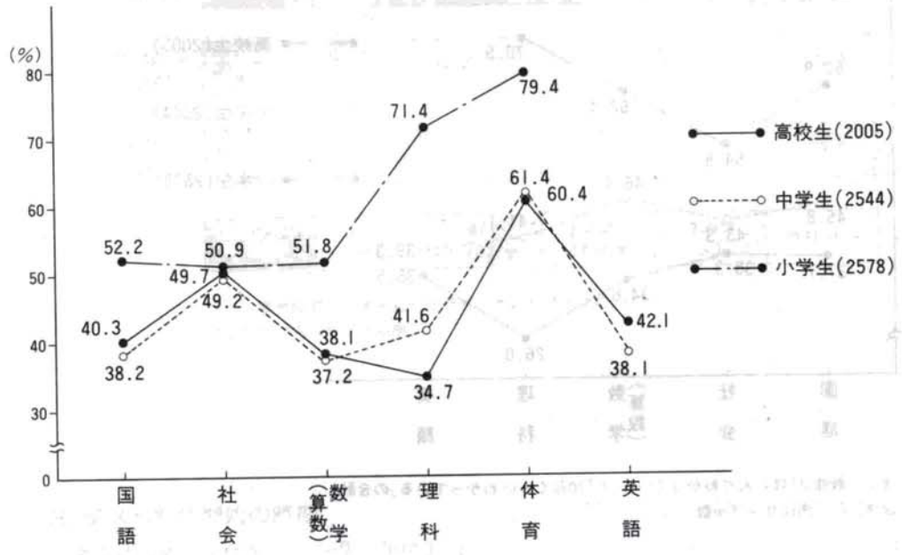
1．学校の授業をめぐって

(1) 教科の好き嫌い

【高校生、中学生で減少する「好き」。】（図3－1）

まず、教科の好き嫌いについて。第一に目につくのは、小学生から中学生にかけて各教科に対して「好き」と答える者が減少することである。変化のないのは社会だけで、他の教科は中学生になると「好き」という反応がぐっと減少する。とくに理科で落差が大きい。中学生と高校生とでは大きな変化はない。

図3－1　教科の好き嫌い



注1）数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
注2）（　）内はサンプル数。

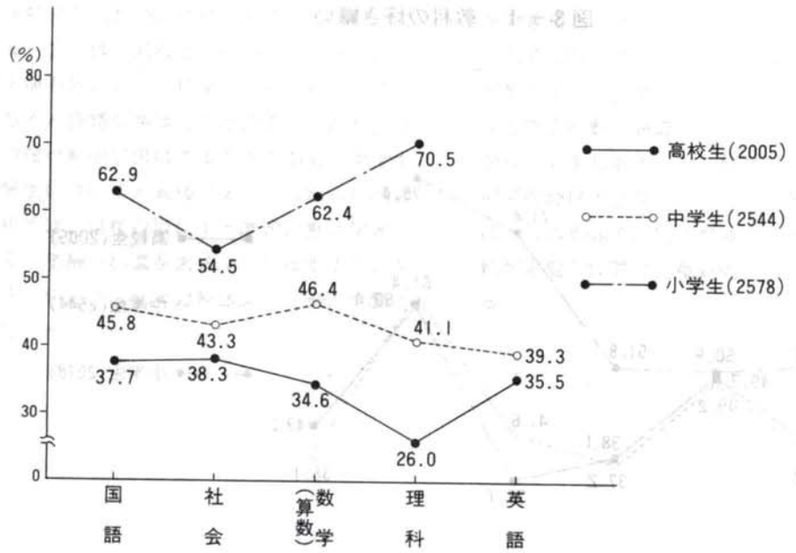
⑵ 授業の理解度

【学校段階の上昇とともに着実に低下する授業の理解度。とくに理科で著しい。】（図3－2）

それでは授業の理解度はどうか。小学生から中学生へ、そして中学生から高校生へと、授業の理解度が低下する様子が明確に出ている。学校段階の上昇とともに、授業は明らかに理解しにくいものへと変わっていく。

小学生と高校生とで理解度の差が相対的に小さいのは社会、逆に理解度の差が大きいのは理科である。理科については、「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計が小学生では7割を超えるのに対して、高校生では26%にすぎない。

図3－2　授業の理解度



注1）数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。
注2）（　）内はサンプル数。

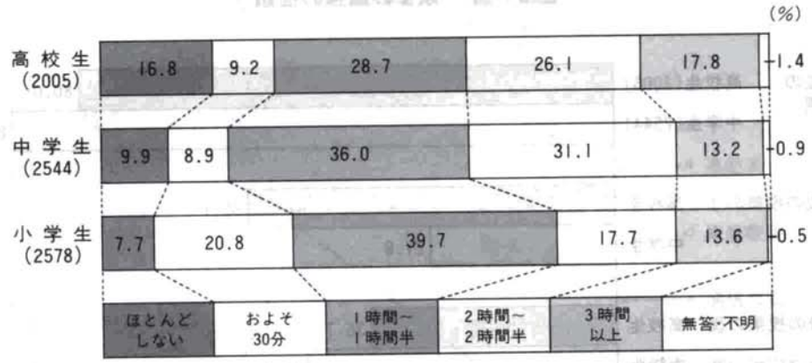
2. 家での勉強

⑴ 学習時間

【小・中・高校生を通じて「ほとんどしない」がもっとも多くなるのが高校生。そして同時に「3時間以上」ももっとも多い。】（図3－3）

平日の平均的な学習時間をみると、「ほとんどしない」者の比率は、高校生17%、中学生10%、小学生8%と、高校生でもっとも多くなっている。それでは、高校生の学習時間は概して小・中学生に比べて短いかといえば、3時間以上する生徒も高校生でもっとも多くなっている。すなわち、小学生、中学生に比べて、高校生は学習時間の面で「ほとんどしない」者から長時間する者まで、分化が著しいといえる。

図3－3　平日学習時間平均



注1）学習時間には学習塾や予備校、家庭教師も含む。
注2）（　）内はサンプル数。

⑵ テスト勉強開始の時期

【早くはじめる中学生、やや遅い高校生。】（付表）

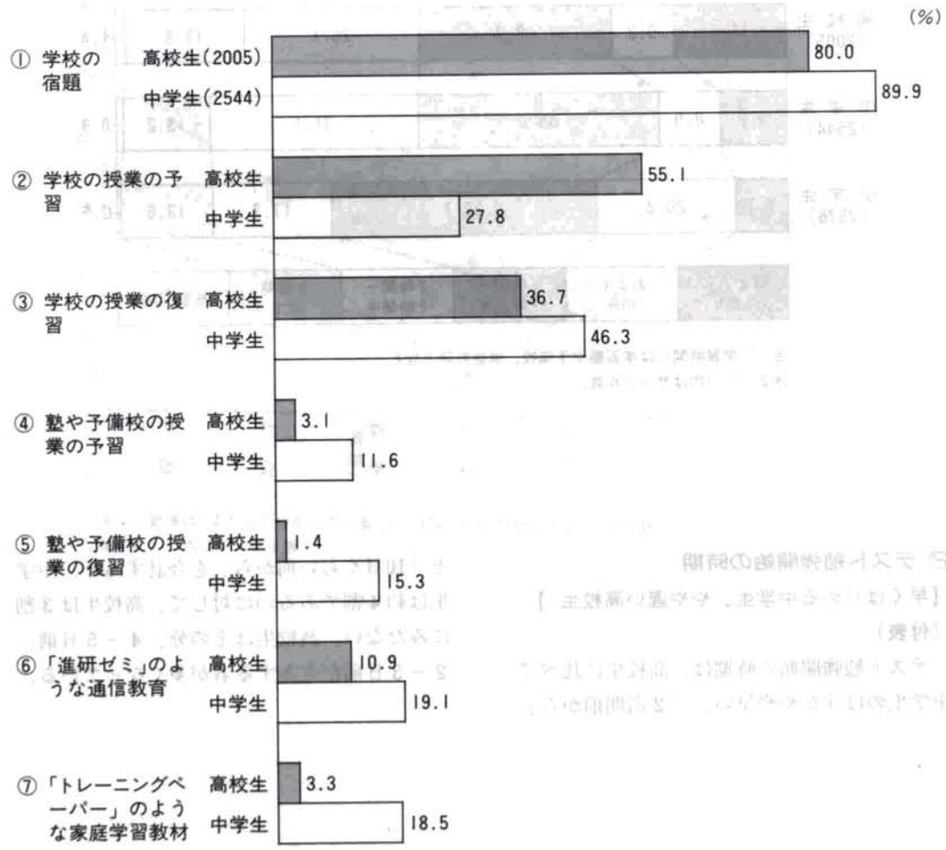
テスト勉強開始の時期は、高校生に比べて中学生のほうがやや早い。「2週間前から」と「10日くらい前から」を合計すると、中学生は約4割であるのに対して、高校生は3割にみたない。高校生はその分、4～5日前、2～3日前からとする者が多くなっている。

⑶ 家での勉強の種類

【高校生は、学校の宿題＋学校の予習型。中学生は宿題に加えて、学校の復習と、さらに塾の予習復習、通信教育、家庭学習教材型。】（図３－４）

家ではどんな勉強をしているか。高校生の半数以上がしているのが、学校の宿題と学校の授業の予習。これに対して中学生は、高校生と比べると、①予習型よりも復習型が多く、②塾の予習、復習をする者が多く、さらに③通信教育、家庭学習教材を使った勉強をする者も多いという特徴がある。中学生の学習行動は、学校以外の学習機会への依存度が大きく、高校生のそれは学校の授業への依存度が大きい。このことから高校生の学習には、学校の授業や指導のあり方がもっぱら大きな影響を与えるものと考えられる。

図３－４　家での勉強の種類



注）（　）内はサンプル数。

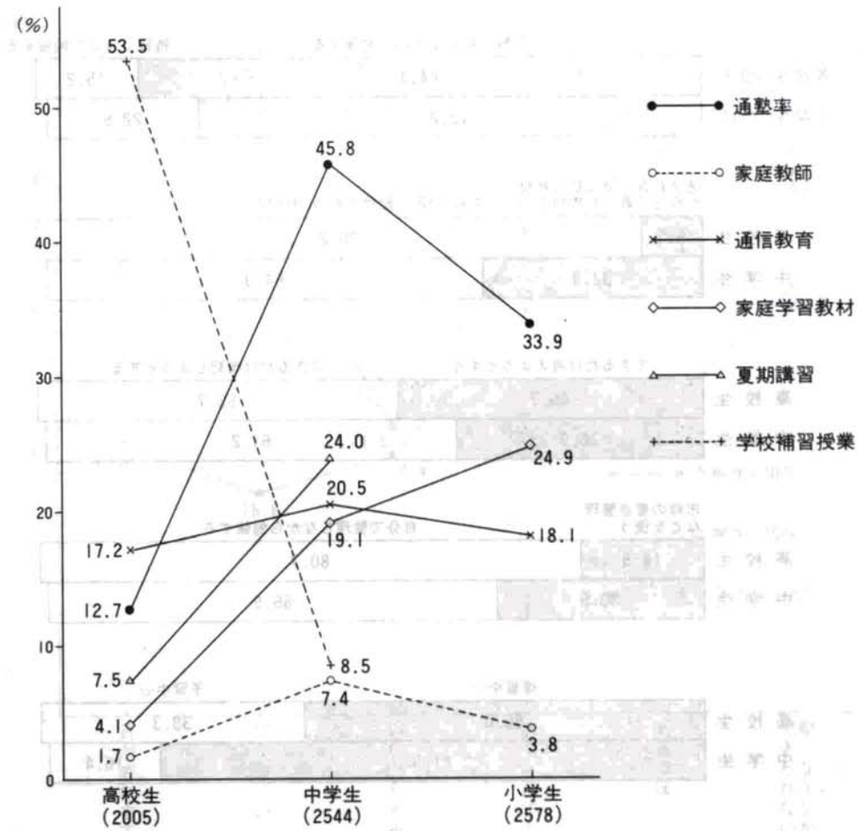
３．学校以外の学習機会の利用率

【通塾率、家庭教師、通信教育、家庭学習教材、塾（予備校）の夏期講習、いずれについても中学生の利用率が高校生を上回る。】（図３－５）

前項の知見を裏づけるように、学校以外の学習機会（塾・予備校、家庭教師、通信教育、家庭学習教材、塾・予備校の夏期講習）の利用率は、中学生のそれが高校生を大きく上回っている。高校生の学習における学校の授業の比重は大きく、中学生は学校以外の学習機会への依存度が大きくなっている。

なお小学生の学校以外の学習機会利用度は高校生より高く、中学生よりやや低い。ただし、家庭学習教材の利用率は小学生が最高である。

図３－５　学習塾、予備校など



注）（　）内はサンプル数。

4. 勉強の仕方をめぐって

【高校生の特徴：学校で配付される教材中心、予習中心、市販の要点整理よりも自分で整理。】（図３－６）

図は、さまざまな勉強の仕方をペアにして提示し、自分の勉強の仕方に近いほうを強制的に選択させた結果である。

中学生と比較したとき、高校生の勉強の仕方は次のような相対的特徴をもっている。

①「毎日こつこつ勉強」よりも「試験の前にまとめて勉強」

②「通信教育、学習塾の教材中心」よりも「学校で配付される教材中心」

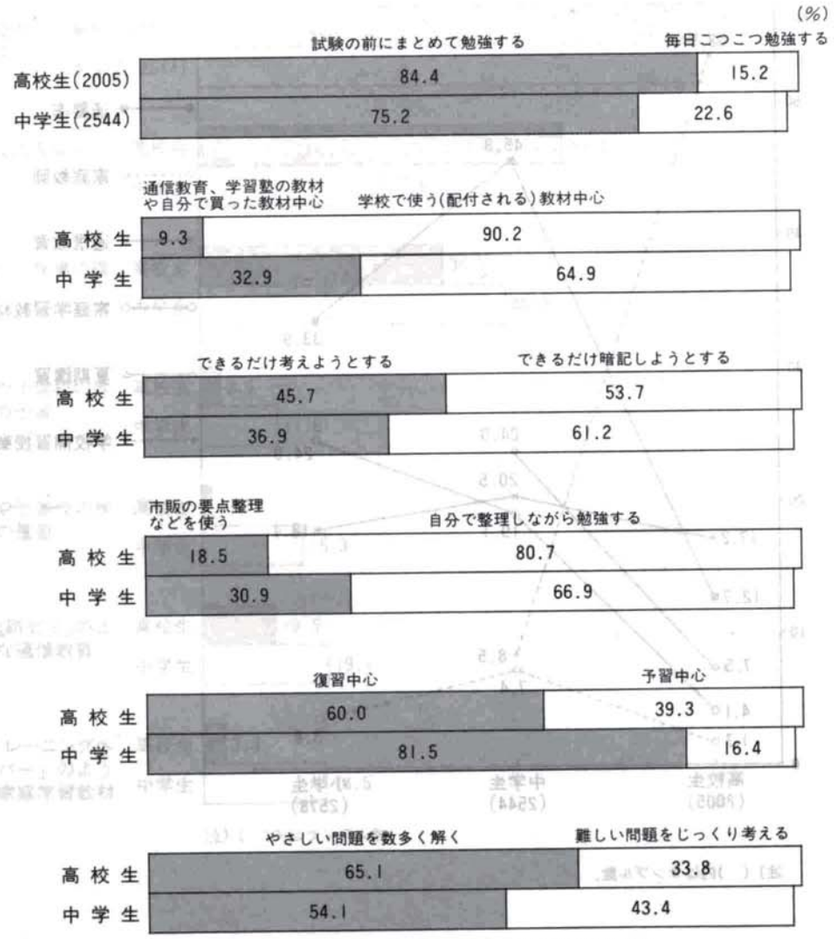
③「できるだけ暗記しようとする」よりも「できるだけ考えようとする」

④「市販の要点整理を使う」よりも「自分で整理しながら勉強する」

⑤「復習中心」ではなく「予習中心」

⑥「難しい問題をじっくり考える」よりも「やさしい問題を数多く解く」

図３－６　勉強の仕方の分類



注１）無答・不明は省略しているので、合計数値は100%にならない。
注２）（　）内はサンプル数。

さしい問題を数多く解く」

学校で配付される教材中心であること(②)、復習中心ではなく予習中心であること(⑤)という結果は、家での勉強の種類(前々項)、学校外学習機会の利用度（前項）の知見と符合している。高校生の学習は、学校が提供する教材や機会の利用が支配的であり、それだけ学校による指導のあり方が彼らの学習に大きな影響力をもつことになる。

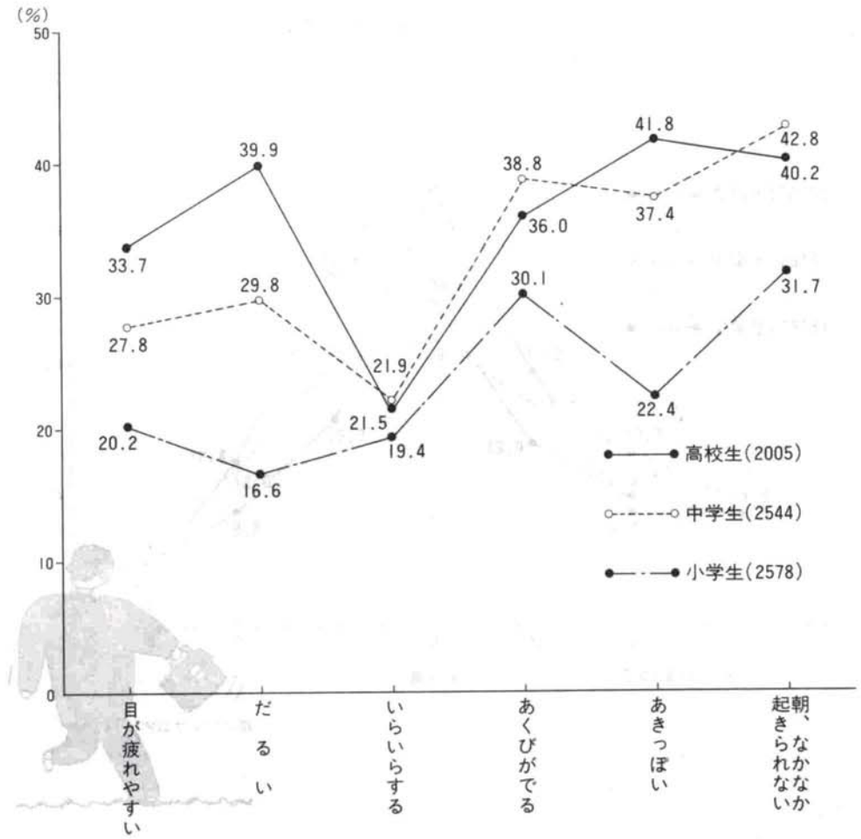
高校生で、暗記よりもできるだけ考える(③)、市販の要点整理よりも自分で整理(④)が多いことは、高校生の学習技能が中学生よりも成熟していることの現れかもしれない。

5. 精神的・肉体的疲労度

【高校生で高まる疲労度。】（図３－７）

精神的、肉体的な疲労度を現すと考えられる諸兆候をみると、小学生よりも中学生、高校生で、自分がそのように感じることが多い

図３－７　精神的・肉体的疲労



注１）数値は「とてもそう思う」の割合。
注２）（　）内はサンプル数。

という結果がでた。とくに「目が疲れやすい」「だるい」という回答は、高校生で顕著に多い。これらの兆候のすべてを、直接学習と関連づけてとらえることはできない。そうした疲労度の発生と学校、学習との関わりを明らかにする必要があるだろう。